

2005年9月2日

“韓国は日本人が作った”黄文雄著(ワック出版)を読んで

阿部哲夫

かねて小生の注目している黄文雄が、表題の新著を発表した。

彼は台湾人の評論家で、従来から親日、反中、台湾独立推進の立場に立って精力的な論を展開してきている。時に親日的すぎて、そこまで云うか、と言うこともないではないが、多くの文献を元に、日本人が言えない言い分までも、率直に主張してくれている、日本人には得難い人物である。

本書でも、日本人は、戦前朝鮮、中国に対して数々の悪行を行ってきた、と思いこんでいる。しかしこれは間違いだ。“日帝 36 年”と朝鮮の批判する日韓合邦の時代に、日本の朝鮮総督府が先頭に立って朝鮮の抜本的な改革を実行したことこそが、長年にわたり中国に隷従し、崩壊に瀕していた李朝朝鮮を救ったのだ、と言うのが黄氏の論である。

彼によれば、朝鮮人は口を開くと厳しい日本批判を続けているが、彼等はずっと歴史を史実に基づいて学ぶべきである。そうすれば、朝鮮は日本を批判するよりも、むしろ日本に感謝すべきなのだ、と言うことに気がつくだろう、と主張している。

同時に彼は、歴史的事実を学ぼうとせず、ひたすら朝鮮、中国に謝罪を繰り返す日本人側のいい加減さ、無責任さ、プライドのなさに、人ごとながら憤慨しているのである。

彼の説を裏付けるだけの情報を欠く小生としては、彼の説を吹聴して廻る度胸はない。彼の批判している朝鮮の歴史学者、また自虐的学者と揶揄されている日本の歴史学者達の反論を聞きたい。

以上